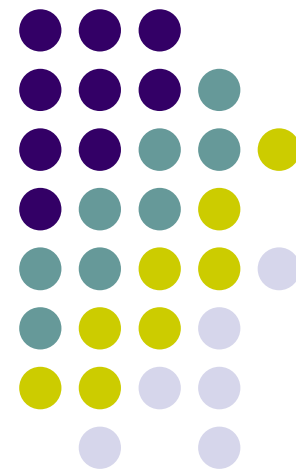


東日本大震災の 栄養・食事確保対応状況 調査の結果について

つくば保健所 健康指導課





調査の概要

- 調査の方法
質問票によるアンケート調査
- 実施期間
平成23年7月
- 調査対象施設
つくば保健所管内の給食施設 132施設
※学校関係機関を除く
- アンケート回収方法
電子アンケートまたはFAX

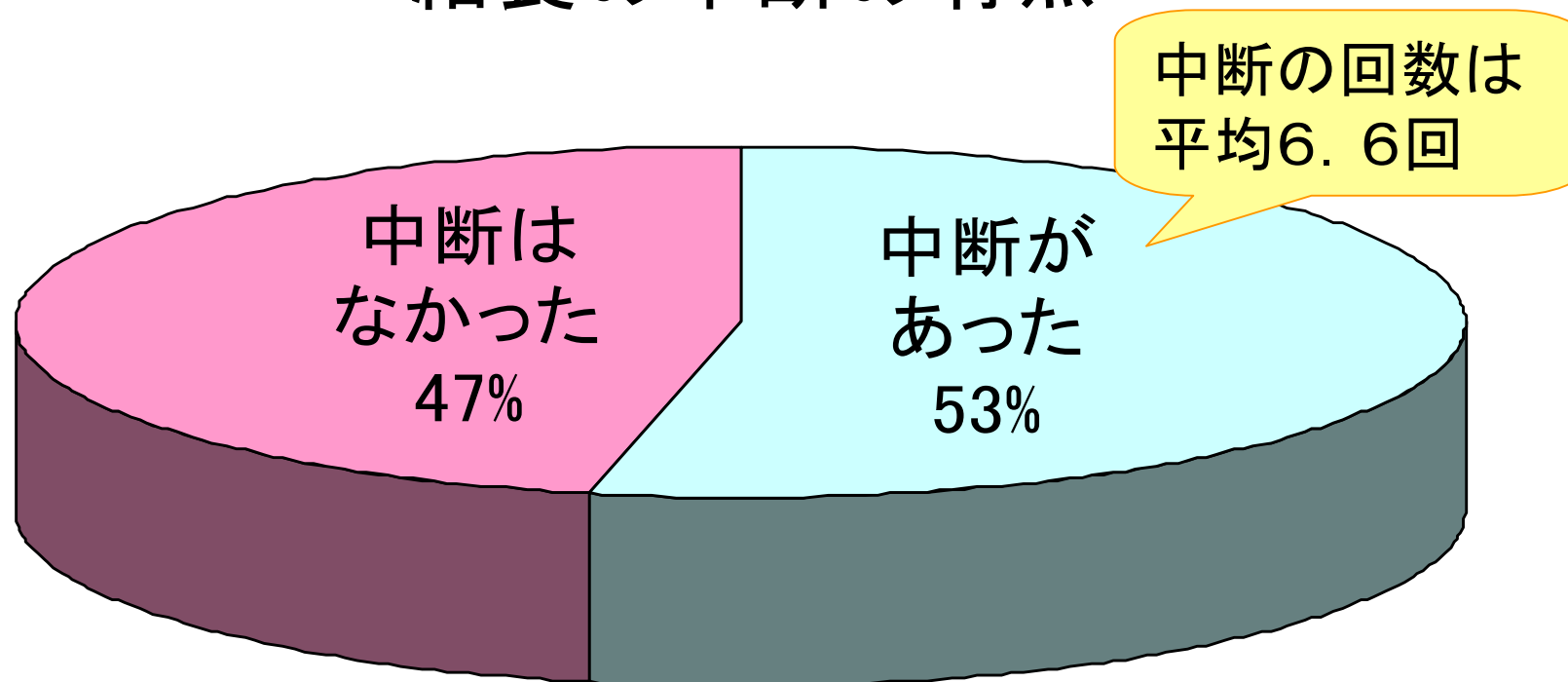
調査結果

- アンケート回収数 109施設
- 回収率 82.6%
- 集計結果 別添のとおり

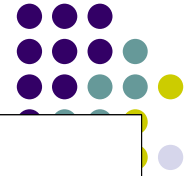




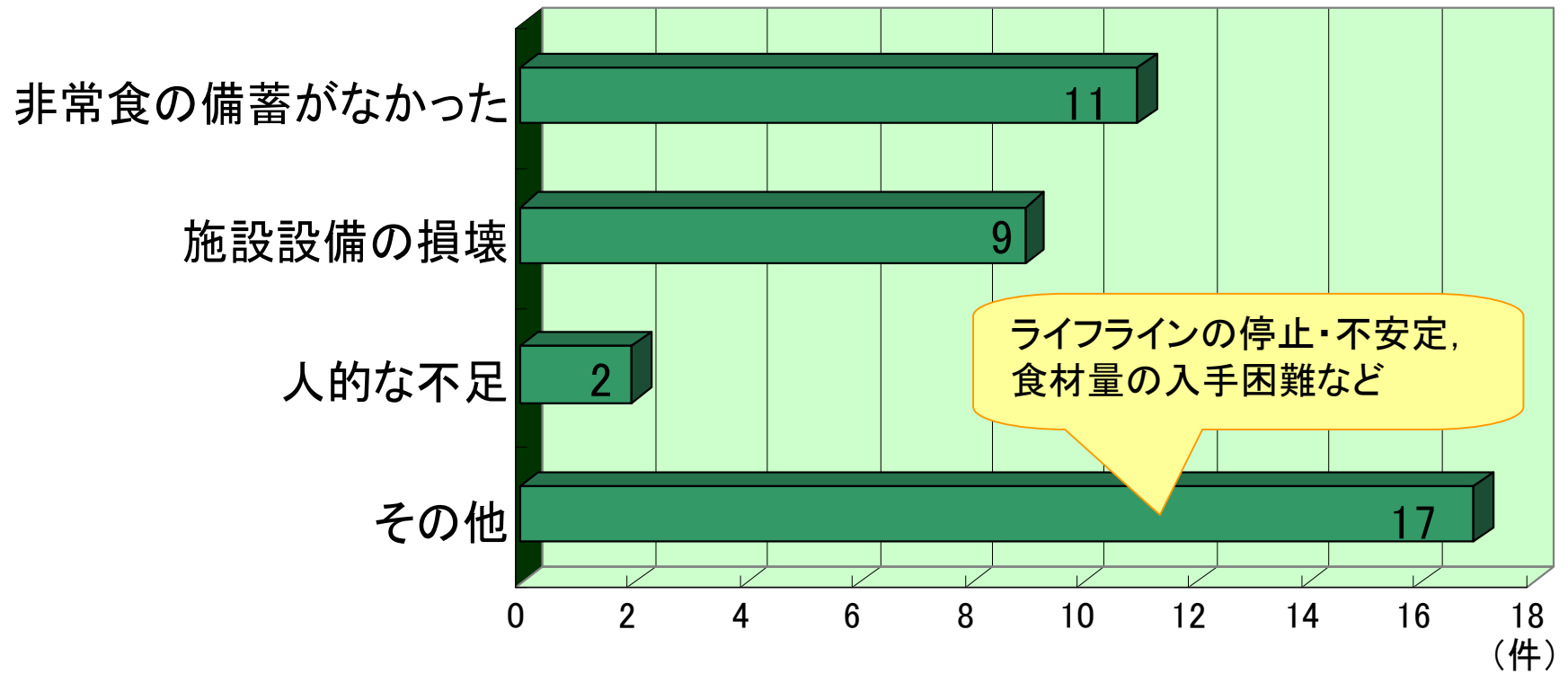
給食の中断の有無



※ 給食の中断があった施設は、児童福祉施設のうち保育所、事業所であった。
入所型施設においては、給食の中断はなかった。

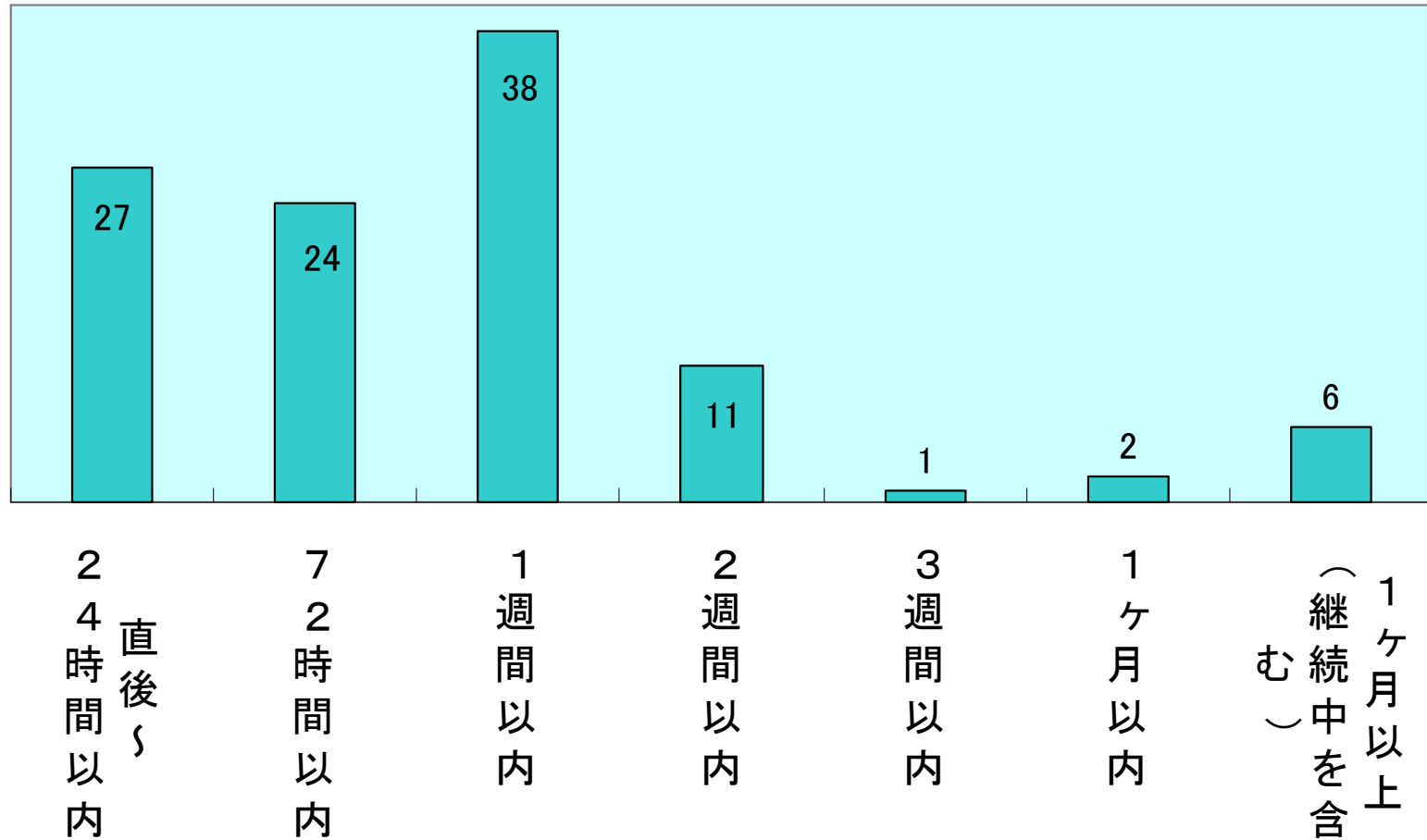


給食中断の理由(複数回答)



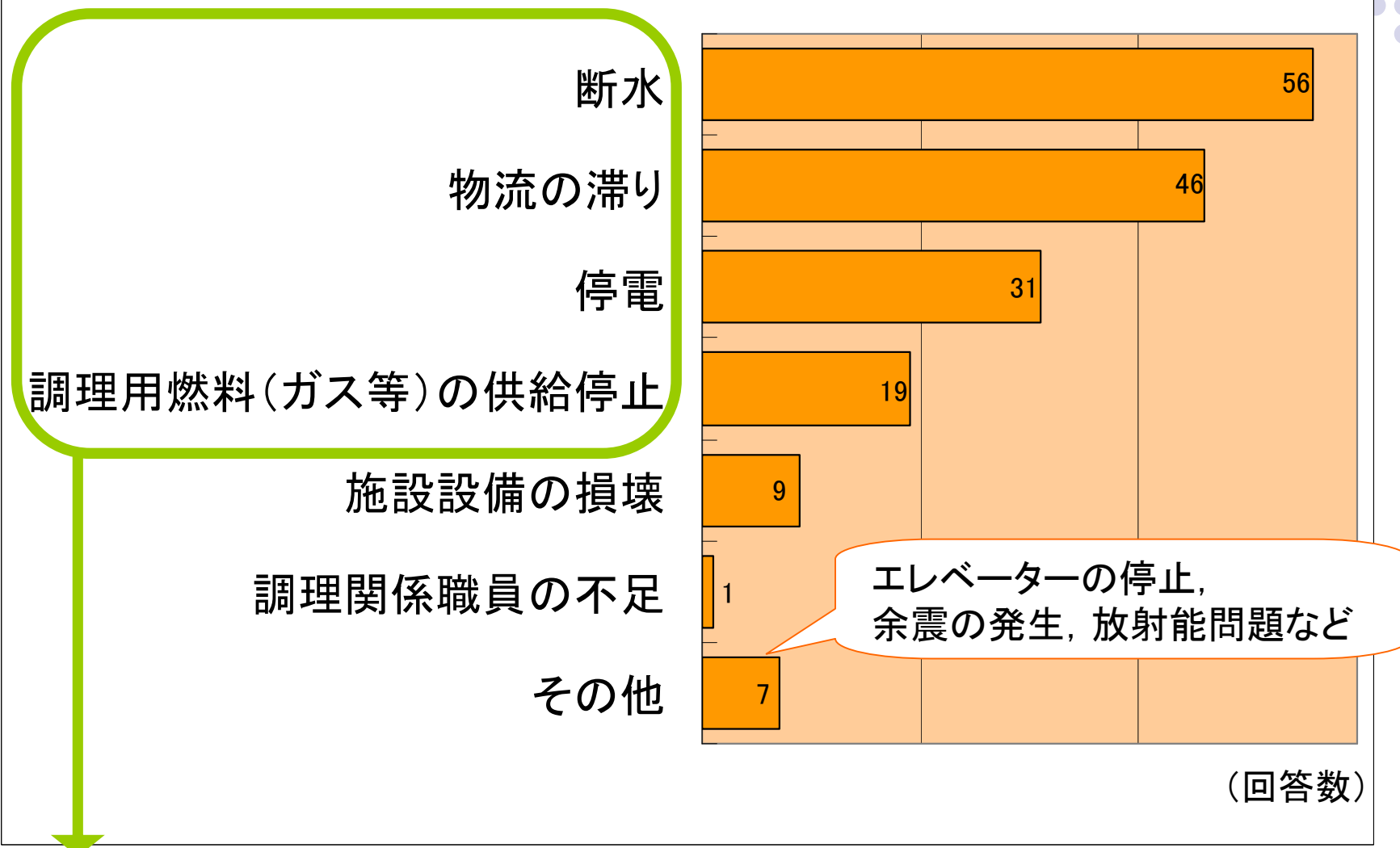
通常の給食形態に戻るまでの期間

n=109



全体の82%が1週間以内に通常の給食形態に戻ることが出来た

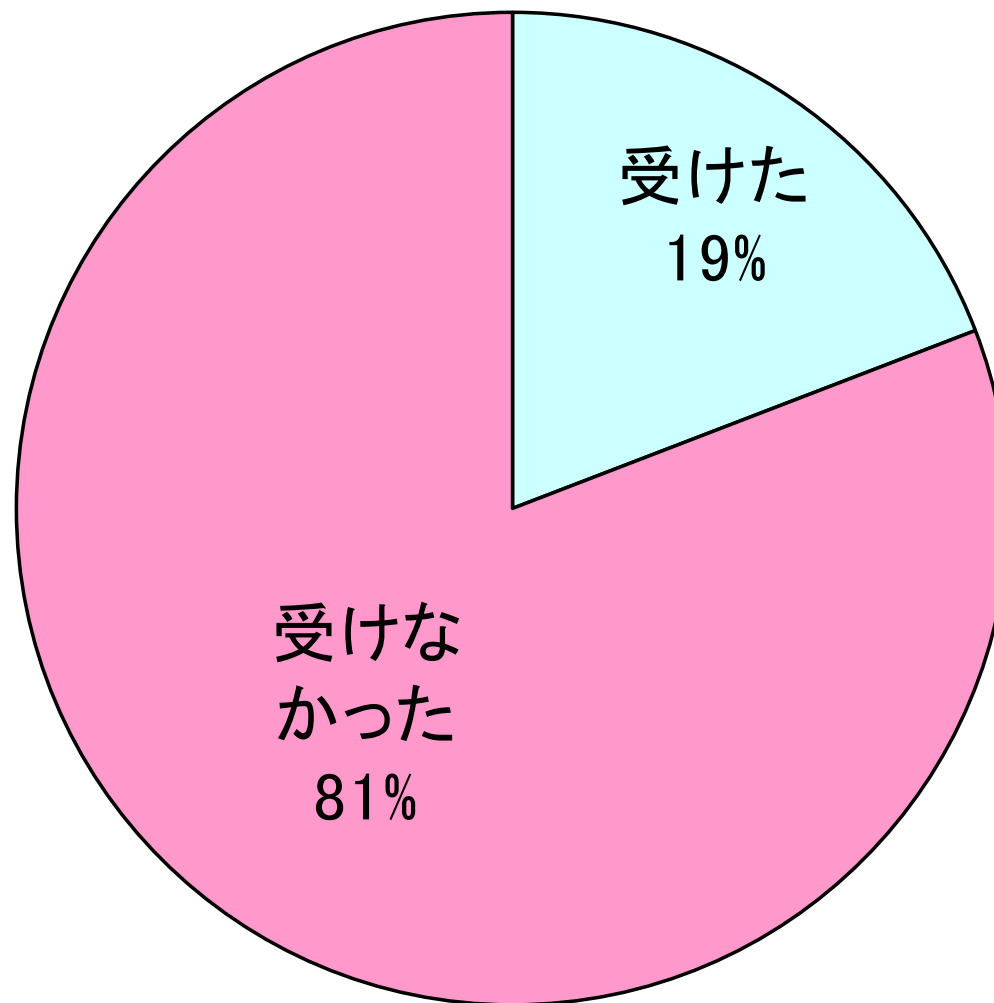
通常の給食形態に戻るために 困難だった事項(複数回答)



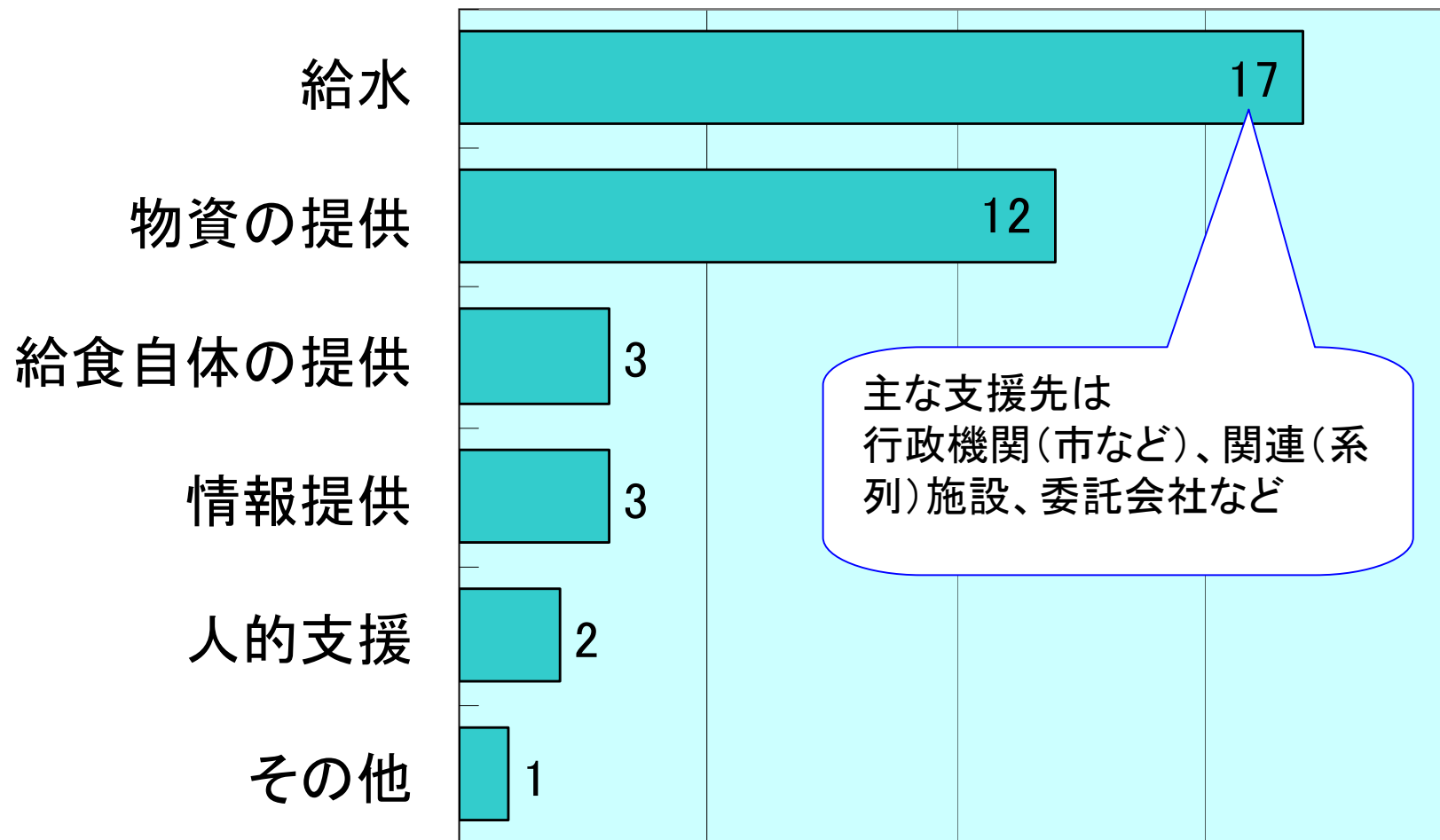
ライフラインの停止と食材の確保困難が通常の給食提供に戻るための阻害要因となった



支援の有無

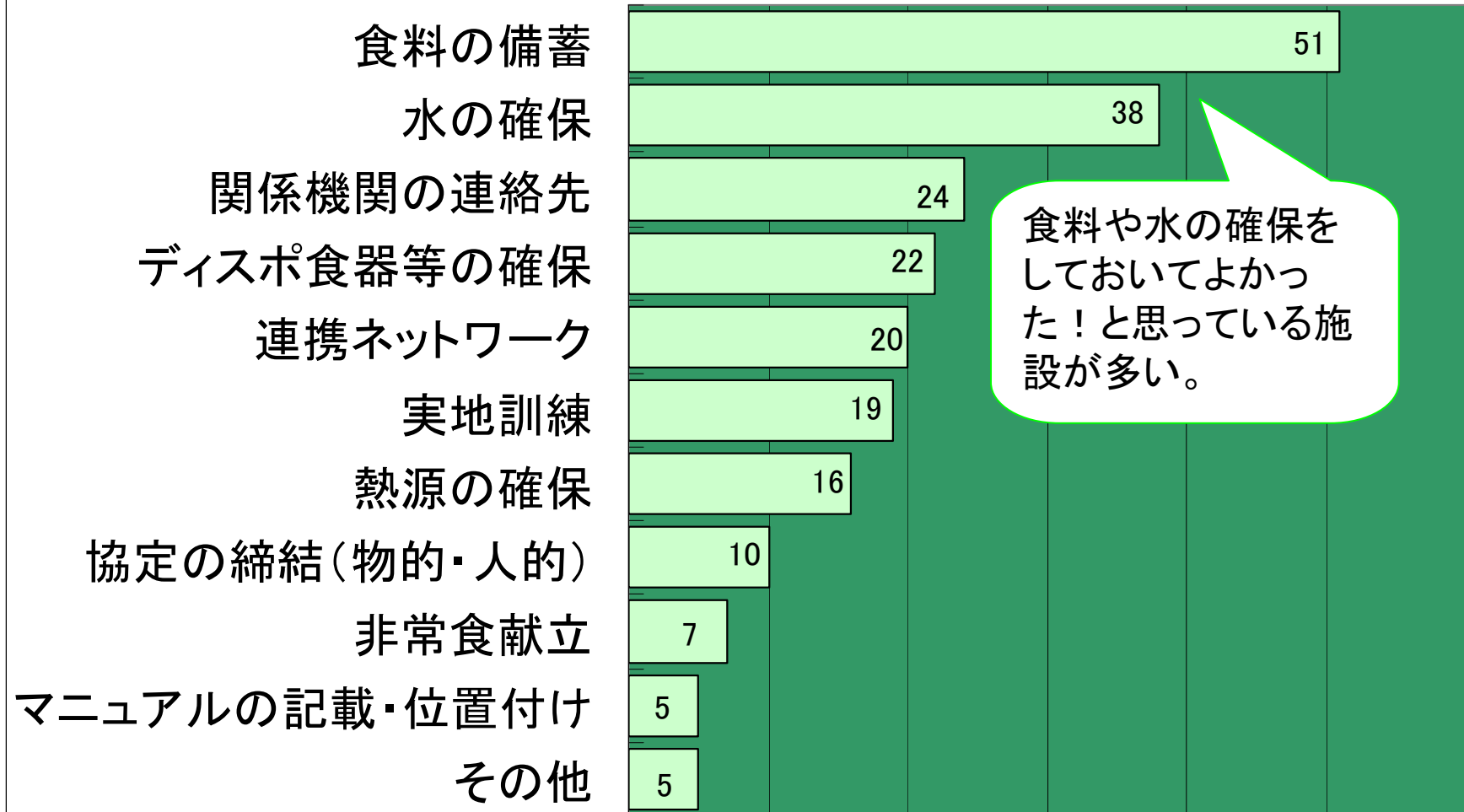


支援を受けた内容(複数回答)



(回答数)

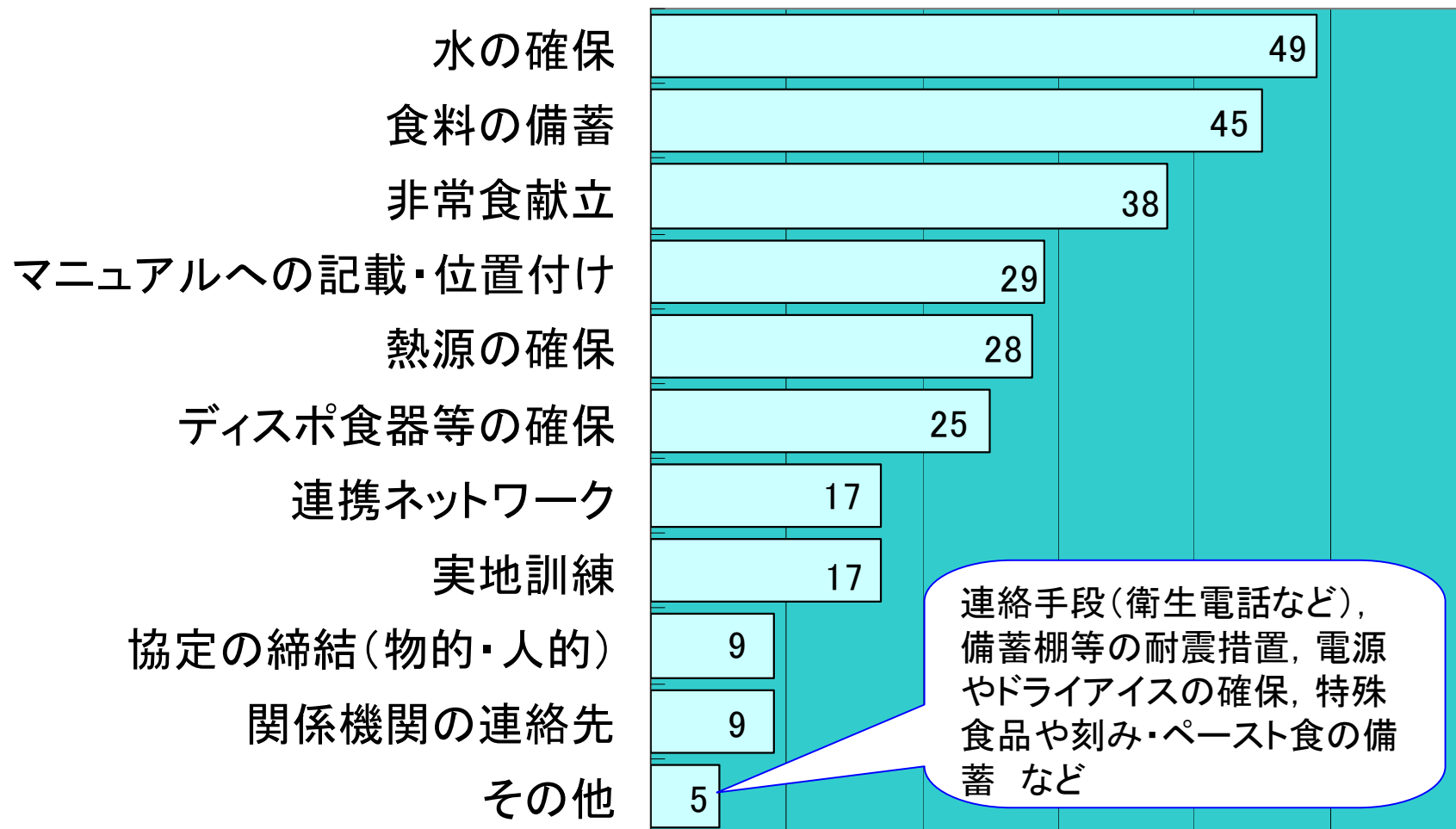
平常時に対応済みであった事項で 特に役立ったと思われる事項(複数回答)



食料や水の確保を
しておいてよかつ
た! と思っている施
設が多い。

(回答数)

平常時に対応しておくべきだった (未整備であった)と思った事項(複数回答)



(回答数)

今回の震災を経て気がついたこと



- 震災発生時、保護者の勤務地が遠方の場合はお迎えが遅くなるため、1～2回分の菓子や軽食を用意しておく必要があると感じた(保育所)
- 常食の献立はもちろん、形態別献立についても非常時の献立を準備しておくべきと感じた。(病院、老人保健施設)
- 調理員が遠方から通勤している場合、非常時の人員確保についても検討しておくべきと感じた。
- 患者や利用者の分の他、職員(スタッフ)分の食料・水の備蓄が必要と感じた。
- 配膳用エレベーターが停止してしまい、配膳に苦慮した。スタッフ間の連携について、事前に決めておく必要があると感じた。
- 食材を納品してもらっている業者と優先契約(非常時に優先的に納品するという契約)を結んでいたため、給食提供ができた。
- 食器洗浄の水を節約するため、食器にラップを敷いて使用した。
- 非常電源のほか、ドライアイス確保についても検討しておくべきと感じた。
- 職員間の情報共有と共通理解が必要と感じた。
- 離乳食の提供があるため、調理済みレトルトおかゆの備蓄があった方がいいと感じた。(保育所)